U.D.C. 72.011.2：725.56

清水建設研究報告
第51号平成2年4月

有料老人ホームにおける共用施設の計画に関する研究

——居住者の余暇活動と食事行為について——

井上　誠
（技術研究所）

§1. はじめに

「高齢化社会」というと，連日，マスコミ等で報道されるような『寝たきり老人』『痴呆性老人』『独居老人の孤独な死』といった，重苦しいイメージが持たれ勝ちである．

人口の高齢化が急速に進行しているのは周知の事実であり，社会的介護負担の増大など，様々な問題が発生することも十分予測できることである．また，個々の人間にとっても，加齢そのものは誰もがたどるプロセスであり，心身機能の低下や介護の必要性を否定することはできない．建築計画の分野においても，心身機能の低下に対応する施設や計画の在り方を提案することは，重要な課題である．これまでにも，老人住宅，老人病院，老人ホームなどに関する研究が数多くの実績を挙げている．

しかし，高齢化の進展は，寝たきり老人，痴呆老人のような要介護者の問題を生むだけではない．現状では，65歳以上の寝たきり老人発生率は4.7%，痴呆性老人発生率は4.6%[1]にすぎない．高齢者の中で圧倒的に多数を占めるのは，日常生活において他人の介護をほとんど必要としない，いわゆる健常者である．また，核家族化および高齢者の自立意識の向上によって，高齢者世帯の増加や，就業機会とその場の必要性の増大などが予想される．したがって，健常者の生活の場として，あらためて高齢者施設の在り方を検討することも，要介護者のための施設と同様に重要な課題であるといえる．

本研究の目的は，健常者を利用対象とする高齢者施設の在り方を明らかにすることである．そのような研究の一環で，原則として健常者であることを入居条件[2]としている有料老人ホームを対象に，施設の使われ方とその問題点を明らかにする．

有料老人ホームは，居住者の私的空間である居室部分と，公的空間である共用部分で構成されており，居住者の日常生活にかかわる様々なサービス[注1]の提供と，それぞれのサービスに対応する共用施設[注2]の設置といった特徴を持つ居住施設である．居室部分については，これまでに建築計画の分野では，老人住宅や老人ホームを対象として，居室の計画に関する多くの研究が行なわれている．しかし，共用施設を検討対象とした研究は，ほとんど行なわれていない．本報では，共用施設の使われ方に着目し，共用施設を利用する居住者の生活行為として，余暇活動と食事行為を検討対象とする．

余暇活動は，一般に有料老人ホームを退職後の生活の場とする居住者にとっては，一日の大半を占めるものである．近年，余暇の積極的活動のなかに生きがいや充実感を見いだす人が増加しており，また人生80年時代において，高齢者の余暇活動時間が増加傾向にあるといわれている[3]．退職後の高齢者にとって，日常生活のなかに生きがいや充実感を見いだせることは，心身の健康のためにも重要である．有料老人ホームでも今後，余暇活動とそれに対応する余暇施設の重要性・必要性が高まると考えられる．

しかし，現状ではどのような余暇施設が有料老人ホームに必要であるかは必ずしも明らかではないため，有料老人ホームに求められる余暇活動と施設をあらかじめ把握することが第1の課題である．本報では，§2.で既存データの分析を行ない，有料老人ホームに求められる余暇活動と施設を把握する[4]．また，有料老人ホームでの余暇活動としては，ホームが提供するサービスとしての活動と，居住者の自主的な活動の二つの側面が考えられる．ホームが提供する活動と居住者の自主的な活動の二つの側面で，余暇施設の使われ方とその問題点を明らかにすることが第2の課題である．§3.で実態調査に基づく検討を行なう．

注1）一般的に，食事（給食），入浴介助，居室清掃，健康診断，緊急時の介護・治療，クラブ・サークル活動，その他の催しなどを提供している．

注2）一般的に，食堂など日常生活に関連する施設，娯楽室など余暇に関連する施設，健康管理室など医療・介護に関連する施設が共用施設として設置されている．

一方，食事は居住者にとって日常の生活で不可欠の行為であり，有料老人ホームにとっても，食事サービスはほとんどすべてのホームが実施している主要なサービスである[5]．また，食事サービスに対応する食堂もほとんどすべてのホームに設置されており，当然のことながら居住者が毎日利用しなければならないことになる重要な施設である．食堂の規模や平面型に影響する食事サービスの利用状況，およびテーブル，座席の使われ方とその問題点を明らかにすることが第3の課題である．§3.で実態調査に基づく検討を行なう．

§2. 高齢者の余暇活動と施設に関する意識

2.1 分析対象資料と分析方法

前述の第1の課題である有料老人ホームに求められる余暇活動と施設を把握するために，以下のような既存の調査データを用いて，分析を行なった．

- 資料① "余暇活動に関する調査"注3) (財)余暇開発センター[6]
- 資料② "有料老人ホームに関する基礎調査"注4) (社)全国有料老人ホーム協会[7]

2.1.1 分析対象資料の選定理由

資料①は，有料老人ホームでも行なわれる可能性がある余暇活動として，一般的な高齢者の活動実態と意識を把握するために選定したものである．

この資料で報告されている調査は，ほぼ全年齢層を対象としており，特に高齢者の余暇活動を対象としたものではない．高齢者の余暇活動という先入観を持たずに構成された設問とその回答は，高齢者のみを対象とした調査データよりも，一般的な高齢者の余暇活動の実態把握に適していると考えられる．

資料②は，実際に有料老人ホームに入居することを意向している高齢者が，入居後行なう可能性がある余暇活動を把握し，さらにどのような施設を求めているかを把握するために選定したものである．

この資料は，有料老人ホーム協会で入居相談を行ない，かつ回答のなかで明確に入居の意向を示した対象者のみのデータを収録している．回答者は，有料老人ホームについての知識と理解があり，その上で入居を意向する高齢者であると考えられる．したがって，有料老人ホームにおける余暇活動や施設を身近な問題として捉えた要望が，データとして収録されているとみられる．

このように，一般的な高齢者，有料老人ホーム入居意向者を対象とした調査データを用いるのは，既存の施設に意識面での制約を受ける恐れがある有料老人ホーム居住者を対象とした調査データよりも，潜在的な要望の把握が可能であると考えられるためである．

2.1.2 分析方法

高齢者の余暇活動の実態や意識，余暇施設の要望に基づいて，有料老人ホームにはどのような余暇施設が必要であるかを把握するために，以下のような方法を用いて分析を行なった．

資料①から，一般的な高齢者の余暇活動に関する意識を把握するために『余暇活動に求める楽しみや目的』，また参加の実態を把握するために『余暇活動参加率』の集計データを抽出した．さらに，それぞれのデータについて，有料老人ホームの一般的な入居可能年齢（60歳以上注5)）のデータのみを抽出，集計した．

資料②から，入居意向者の有料老人ホームにおける余暇活動，施設に対する要望を把握するために，『入居意向者が希望する余暇活動』『入居意向者が必要と考える共用施設』の集計データを抽出した．さらに，資料①と同様に60歳以上のデータのみを抽出，集計した．

60歳以上のデータのみを抽出したのは，年齢条件で有料老人ホームに入居可能な高齢者が，現時点で入居した場合に行なう可能性がある余暇活動の把握と，ホームに求める余暇施設を把握するためである．

以上の手順で抽出，集計したデータから，高齢者の活動実態や意識と有料老人ホームにおける余暇活動や施設に対する要望の対応を検討した．

2.2 分析結果

2.2.1 余暇活動に求める楽しみや目的

資料①では，男女別，年代別の集計データから，現状把握を行なっている．全体的に『友人や知人との交流』『心の安らぎを得る』が，代表的な余暇の動機となって

注3) 日本人の余暇意識と余暇活動参加実態の把握を目的とした訪問留置アンケート調査である．調査対象は，全国15歳以上の4,000人，調査時期は1988年12月である．

注4) 有料老人ホームの需要動向と求められる機能・施設や設備，サービスに関する需要者のニーズの把握，ホームの設置運営のための基礎資料を得ることを目的とした郵送アンケート調査である．調査対象は，全国有料老人ホーム協会で入居相談を行なった6,682人，調査時期は1984年12月から1985年1月である．

注5) 中央福祉審議会は，1974年に「有料老人ホームのあり方に関する意見」のなかで，入居者の年齢を『おおむね60歳以上（その配偶者は60歳未満の者であってもさしつかえない）』と定義している．

いるという分析結果が報告されている．

表―1は，60歳以上の高齢者が余暇活動に対して求める楽しみや目的について，男女別に上位5項目をまとめたものである．

男性は『健康や体力の向上』が最も多く，次いで『友人や知人との交流』が主な目的となっている．

女性は，『友人や知人との交流』が最も多く，次いで『心の安らぎを得る』が多くなっている．

2.2.2 余暇活動への参加状況

資料①では，余暇活動を4つの部門に分け，部門毎の男女別，年代別，現居住地域別集計データから，1982年以降の時系列的な動向が分析されている．全体的に，参加率が前回の調査よりも上昇した活動が多く，スポーツでは屋外活動，趣味創作では音楽・映像関連活動の参加率が上昇傾向にあるという分析結果が報告されている．

表―2は，60歳以上の高齢者の余暇活動について，男女別，部門別の参加率上位5項目をまとめたものである．

いずれの部門でも男性の参加率が女性より高く，また有料老人ホーム内施設の利用可能性があるスポーツと趣味創作では，男女ともに趣味創作の参加率が高い．

スポーツでは，特定の施設が不要な『体操』『ジョギング，マラソン』の参加率が高く，『ゴルフ練習』『ゲートボール』『卓球』は参加率が低い注6)注7)．趣味創作では，男女ともに『園芸，庭いじり』，男性は『日曜大工』，女性は『編み物，織物，手芸』『洋裁，和裁』のような菜園・農園，工作室，手工芸室などを利用する活動の参加率が高い．

2.2.3 入居意向者が希望する余暇活動

資料②では，男女別，年代別，職業別，立地タイプ別，入居方式別にデータ集計が行なわれている．しかし，分析は男女別のみが行なわれている．全体的に趣味活動の希望が多く，特に『旅行』『読書』，またスポーツでは『ゲートボール』『水泳』に対する希望が多いという結果を得ている．

表―3は，60歳以上の有料老人ホーム入居意向者が老後生活で行ないたいと考えている余暇活動について，男女別，部門別に上位5項目をまとめたものである．

部門としては，スポーツよりも趣味活動への参加希望が多い．スポーツでは『ゲートボール』が最も多く，趣味活動では『読書』『旅行』が多くなっている．

注6) 男性の『ゲートボール』は5.4%で，スポーツ部門の10位である．

注7) 釣りやゴルフに関しては，釣堀やミニゴルフ場を設けているホームの例はみられる[8]が，本格的な活動を行なうにはホーム内での対応は困難であると考えられる．

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性 N=312	健康や体力の向上をめざすこと (59.4)	友人や知人との交流を楽しむこと (54.6)	心の安らぎを得ること (51.6)	家族との交流を楽しむこと (42.6)	自然に触れること (42.3)
女性 N=283	友人や知人との交流を楽しむこと (67.8)	心の安らぎを得ること (55.4)	健康や体力の向上をめざすこと (47.9)	自然に触れること (37.4)	家族との交流を楽しむこと (36.4)

(括弧内は%)

(「余暇活動に関する調査」(財)余暇開発センター)

表―1 高齢者（60歳以上）が余暇活動に求める楽しみや目的（上位5項目）

性別	部門	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男性 N=312	スポーツ	器具を使わない体操 ④ (39.2)	ジョギング、マラソン ⑨ (23.9)	釣り (18.1)	ゴルフ（コース） (9.1)	ゴルフ（練習場） (8.4)
	趣味創作	園芸 庭いじり ② (57.0)	日曜大工 ⑤ (33.5)	写真の制作 (17.7)	スポーツ観戦*2 (14.8)	映画*2 (13.4)
	娯楽	外食*3 ③ (41.3)	宝くじ ⑥ (32.6)	バー、スナック、パブ、飲屋 ⑧ (26.0)	家庭でのカラオケ (20.8)	将棋 (19.8)
	観光行楽	国内観光旅行*4 ① (67.1)	ドライブ ⑦ (31.4)	動・植物園 水族館など ⑩ (23.8)	ピクニック、ハイキング、野外散歩 (22.9)	催し物、博覧会 (21.9)
女性 N=283	スポーツ	器具を使わない体操 ⑤ (29.1)	ジョギング、マラソン (11.0)	ゲートボール (5.3)	卓球 (3.0)	釣り (2.7)
	趣味創作	園芸 庭いじり ② (49.4)	編み物、織物、手芸 ④ (31.6)	洋裁、和裁 ⑦ (26.0)	観劇*2 (15.9)	美術鑑賞*2 (11.8)
	娯楽	外食*3 ③ (44.2)	トランプ、オセロ、カルタ、花札など (16.7)	宝くじ (16.4)	家庭でのカラオケ (13.7)	バー、スナック、パブ、飲屋 (8.2)
	観光行楽	国内観光旅行*4 ① (59.8)	ドライブ ⑥ (27.6)	催し物、博覧会 ⑧ (23.1)	動・植物園 水族館など ⑨ (22.1)	ピクニック、ハイキング、野外散歩 ⑩ (20.5)

（括弧内は%，参加率*1を示す
○内の数字は全体の順位（上位10項目））

*1：ある活動を1年間に1回以上行なった人（回答者）の割合
*2：テレビを除く
*3：日常的なものを除く
*4：避暑，避寒，温泉など

（「余暇活動に関する調査」（財）余暇開発センター）

表―2 高齢者（60歳以上）の余暇活動参加状況（各部門上位5項目）

部　門	1位	2位	3位	4位	5位
スポーツ	ゲートボール (19.3)	卓球 (14.9)	釣り (14.5)	ジョギング (14.4)	水泳 (13.4)
趣味活動	読書 (42.3)	旅行 (41.2)	園芸 (24.2)	俳句・短歌 (14.3)	囲碁・将棋 (13.2)

（括弧内は%）

（「有料老人ホームに関する基礎調査」㈳全国有料老人ホーム協会）

表―3　有料老人ホーム入居意向者（60歳以上）が希望する余暇活動（各部門上位5項目）

順位	1位	2位	3位	4位	5位
施設	特別介護室 (41.7)	売店 (36.6)	図書室 (32.4)	外来者宿泊室 (27.8)	温泉式大浴場 (24.8)
順位	6位	7位	8位	9位	10位
施設	理・美容室 (20.7)	農園 (16.1)	機能回復訓練室 (14.7)	屋外運動場 (14.3)	喫茶室等 (13.5)

（括弧内は%）

（「有料老人ホームに関する基礎調査」㈳全国有料老人ホーム協会）

表―4　有料老人ホーム入居意向者（60歳以上）が必要と考える共用施設（上位10項目）

2.2.4　入居意向者が必要と考える共用施設

資料②では，全体的に医療・介護や日常生活のための施設の必要性が高く，余暇施設は重要視されていないという結果が得られている．

表―4は，60歳以上の有料老人ホーム入居意向者が必要と考えている共用施設について，男女別に上位10項目をまとめたものである．

60歳以上でも全体の傾向と同様に，医療・介護や日常生活のための施設が上位である．余暇施設では，『図書室』『農園』『屋外運動場』『喫茶室等』が必要な施設として挙げられている．

2.3　考察

余暇活動の目的としては，男性の場合健康の維持を最も重視し，また活動そのものを一種の社会生活の場として捉えているとみられる．一方，女性は男性と同様に余暇活動そのものを一種の社会生活の場として捉え，そこでの精神的な充足を得ることを重視しているとみられる．

一般的な高齢者の余暇活動参加状況をみると，いずれの部門でも男性の方が女性よりも積極的に参加していることが分かる．また，4部門のうち有料老人ホーム内での余暇施設を利用する可能性があるスポーツと趣味創作では，男女ともに趣味創作の活動の参加率が高いことから，余暇施設としては趣味創作の施設が求められているとみられる．特に，菜園・農園，工作室，手工芸室などが具体的な施設として考えられる．一方，スポーツでは特定の施設を要しないスポーツの方が参加率が高く，スポーツ施設の必要性は必ずしも高いとはいえない．

さらに，入居意向者の参加希望が多い活動を，有料老人ホーム入居後に参加する可能性が高い活動であるとすると，60歳以上では趣味活動の希望が多いため，施設としては趣味活動への対応を求められているといえる．しかし，スポーツでは前述のような一般的な高齢者の参加率が低い『ゲートボール』『卓球』が上位にあり，有料老人ホームの施設やクラブ・サークルなどの組織活動への期待があることが考えられる．

有料老人ホームにおける共用施設としては，医療・介護や日常生活のための施設に対する関心が高いことが分かる．余暇施設のなかでは，前述の余暇活動参加率が高い活動に対応する『手工芸室』『工作室』などの必要性はほとんど意識されていない．したがって，余暇活動参加状況や希望に比べて，必ずしも余暇施設の必要性を高く意識しているとはいえない．

§3.　有料老人ホーム居住者の余暇活動と食事行為

3.1　調査対象と調査方法

前述の，第2の課題である余暇施設の使われ方と問題点，第3の課題である食堂の使われ方と問題点の検討を行なうために，以下のような調査対象と方法を用いて実態調査を行なった．

3.1.1　調査対象の概要

調査対象としたBCホームは，1988年7月，神奈川県茅ケ崎市に開設された有料老人ホームで，設立・運営主体は株式会社である．

居室数は54で，1989年9月現在の入居室数は45，入居者数は56名（うち，男性単身8名，女性単身18名，夫婦15組30名），入居者の平均年齢は74.3才である．

スタッフは，施設長1名，運営・管理担当11名，ケア担当6名の計18名であり，食事サービスおよび清掃サービスは外部業者に委託している．

主な共用施設としては，食事サービスのための食堂，余暇活動のためのラウンジ，多目的ルーム，プレー・ルーム，温水プール，医療・介護のための健康管理室などがある．共用の大浴場はなく，各居室にユニット・バス

を設置，また温水プールにジャグジー（気泡風呂）と低温サウナを併設している．

実態調査に当たっては，前回の調査で対象とした有料老人ホーム[9]を中心に調査実施の打診を行なった．しかし，有料老人ホームは現在市場競争が激しく，ノウハウの流出を恐れており，また居住者のプライバシー確保の観点から，いずれのホームでも外部者が居住者を対象とした調査を行なうことに難色を示したため，今回はBCホーム1例のみの調査実施にとどまった．

BCホームにおける居住者の年齢層は，一般的な有料老人ホームの入居可能年齢である60歳代前半から80歳代後半にわたっており，有料老人ホーム居住者の生活行為を把握するうえで適していると考えられる．BCホームは，前述のような共用施設をもっており，またそのような施設を用いてホーム主催の日常的な活動も積極的に試みている．そのため，ホームが主催する組織的な活動と個人的な活動の双方について，実態を把握することが可能であるとみられる．

さらに，そのような施設や活動は，これからの有料老人ホームの在り方に関する試みとして有料老人ホーム関係者（他施設の運営管理者など）にも注目を集めている．今後の有料老人ホームに関する計画上の課題を明らかにするうえでも，適切な対象であると考えられる．

3.1.2 調査方法

居住者の余暇活動と余暇施設の使われ方に関して，調査者自身の観察によって，ラウンジ，多目的ホール，プレー・ルーム，温水プールの利用者名，内容，利用時間を記録した．居住者の食事行為と食堂の使われ方に関して，食事時間中の観察によって，各居住者が利用した席の記録と着席から離席までの時間の記録を行なった．このような調査者自身の観察と筆記による記録の方法を用いたのは，カメラなどを記録用の器具として用いた場合調査対象であるという意識が，「ホームの実験道具として使われている」という居住者の不信感を生じることが懸念されたためである．

居住者や運営・管理者との日常的な会話を通して，有料老人ホームにおける生活や施設計画上の問題点などに関するヒアリングを行なった．当初，調査票をあらかじめ用意して，居住者を対象にヒアリングを実施する予定であった．しかし，居住者を時間的に拘束するヒアリングは，居住者の身体的，精神的負担を生じる恐れがある．また，前述のような居住者の不信感が生じることも懸念された．そのため，調査票を用いない前述の方法を採用することにした．

調査は，1989年8月4日(金)，7日(月)から12日(土)，22日(火)から26日(土)の延べ12日間にわたって実施した．ただし，8月4日～11日の期間は居住者の識別（名前と顔の一致）に要し，収集したデータが不完全であったため，本報では8月12日，22日～26日のデータを分析に用いることにした．

3.2 調査結果

3.2.1 居住者の余暇活動と施設の利用状況

余暇活動の施設・諸室としては，ラウンジ，多目的ルーム，プレー・ルーム，温水プールなどがある．

ラウンジ，多目的ルームは1階に設けられている．ラウンジは，居住者同士のコミュニケーションや来客応対などのために設けられている．多目的ルームは，ホームが日常的に開催する健康維持・増進のための運動[注8]，講演会などのために設けられている．プレー・ルーム，温水プールは，地下1階にサンクン・ガーデンに面して設けられている．プレー・ルームには，ビリヤード台，カード・テーブル，ソファなどを設置し，茶室を兼ねた和室が併設されている．温水プールは常時居住者が自由に利用できるほか，ホームが日常的に開催する健康維持・増進のための運動に用いられている．

(1)ラウンジの使われ方

ラウンジが居住者同士のコミュニケーションに利用されたのは8月25日（101fと504f），8月26日（211m，212f，302f，304f，404M，406F）の2回である．

そのほかに，銀行の出張サービスが毎週火曜日の午前中にラウンジで行なわれている．ラウンジが利用者によく利用されているのは，このときである．

(2)多目的ルームの使われ方

表—5は，多目的ルームにおけるホーム主催の健康維持・増進運動の参加者をまとめたものである．

調査期間中，1回でも参加した居住者は22名であり，全居住者56名中の入院・外泊などの長期不在者4名を除く在宅者（52名）の42.3%に当たる．内訳は，単身男性2名（在宅者の33.3%），単身女性8名（同47.1%），夫婦男性（同33.3%），夫婦女性7名（同50.0%）である．また，1日の平均参加者数は12.5名（1回当たりでは7.1名）で，在宅者の24.0%が参加していることになる．

個人別には，平均参加日数は2.0日（単身男性2.5日，単身女性1.8日，夫婦男性2.2日，夫婦女性2.1日）である．毎日参加したのは，102F，203Fのみである．

注8）通常，9：30～10：00，10：00～10：30の2回，専門のスタッフの指導のもとに行なわれており，参加は自由である．

参加者	8／22 9:31	8／22 10:05	8／24 9:55	8／25 9:30	8／25 9:54	8／26 9:30	8／26 10:00	参加日数*1*3（参加率*2*4）
単身男性								
403m	*			*		*		3（75.0）
407m	*		*					2（50.0）
単身女性								
303f	*			*		*		3（75.0）
309f		*			*		*	3（75.0）
508f		*					*	2（50.0）
304f	*			*				2（50.0）
101f	*							1（25.0）
202f							*	1（25.0）
212f		*						1（25.0）
313f			*					1（25.0）
夫婦男性								
104M			*	*		*		3（75.0）
203M			*		*		*	3（75.0）
205M			*				*	2（50.0）
509M				*		*		2（50.0）
409M			*					1（25.0）
夫婦女性								
102F	*	*	*	*			*	4（100.0）
204F	*		*	*		*	*	4（100.0）
206F			*				*	2（50.0）
301F		*	*					2（50.0）
104F						*		1（25.0）
205F							*	1（25.0）
509F				*				1（25.0）
参加者数*5	7	5	11	8	2	6	11	

（*は参加を示す）

*1：各居住者が参加した日数を示す
*2：8月22～26日の4日間（23日は，遠足のため開催されなかった）の参加日数の割合を示す
*3：参加者一人当たりの平均参加日数は 2.0日（単身男性 2.5日，単身女性 1.8日，夫婦男性 2.2日，夫婦女性 2.1日）である
*4：平均参加率は50.0%（単身男性62.5%，単身女性43.8%；夫婦男性55.0%，夫婦女性53.6%）である
*5：1日当たりの平均参加者数は12.5人である（1回当たりの平均参加者数は 7.1人）

表―5 健康維持・向上のための運動（ホーム主催）参加状況

日付	開始時刻	208m	407m	403m	304f	303f	402f	309f	101f	203M	204F	206M	206F	301M	509M	人数計*1
8/12	10:00	*	*		*						*					4
	13:35	*										*	*			3
22	10:00				*	*					*					3
	19:40				*		*			*	*					4
23	12:45											*	*			2
	14:05													*		1
	16:28			*				*								2
	19:11				*		*			*	*					4
24	9:15							*								1
	9:30					*										1
	10:23			*		*		*								3
	12:40			*												1
	15:00				*					*				*		3
	16:49									*				*		2
	17:20			*												1
	18:40									*	*				*	3
	19:02				*		*			*	*				*	5
25	8:00			*						*	*					3
	8:47			*	*					*	*					4
	9:10									*						1
	9:30								*				*			2
	10:03				*										*	2
	10:53				*					*	☆				*	4
	13:10				*		*									2
	17:07			*												1
26	8:11			*		*		*		*					*	5
	10:24									*					*	2
	13:00	*						☆						*		3
居住者別利用回数*2		3	1	8	10	4	4	5	1	12	9	2	3	4	6	

（*はビリヤードを行なったことを示す）

*1：1日当たりの平均ビリヤード利用者数は12.0人である．ビリヤード1回当たりの平均利用者数は 2.6人である
*2：居住者一人当たりの平均ビリヤード利用回数は 5.1回となる

表―6 ビリヤード利用状況

自主的な利用としては，104Mの体操（毎朝），8月12日（104M，104F，203F）および22日（102F，104M，104F，203F，301M，301F）のダンスの練習がある．

(3)プレー・ルームの使われ方

表―6は，プレー・ルームで最もよく利用されるビリヤードの利用者をまとめたものである．

期間中1回でも利用した居住者は13名であり，全居住者の23.2%（長期不在者を除く52名中25.0%）である．また，1日の平均利用者は12.2名，1回の利用者は1～5名で，平均利用者は2.6名である．利用者の個人別には利用回数が1～12回で，平均では5.1回である．

なお，調査期間中ビリヤード以外でプレー・ルームが利用されたのは，8月10日に行なわれたビデオ上映，8月25日の囲碁（101fと306M）のみであった．

3.2.2 居住者の食事サービスと食堂の利用状況

BCホームでは，健康管理のために原則として食堂を利用することになっている．食事時間は，朝食7：30～9：00，昼食11.30～13：00，夕食18：00～20：00(夏期)，

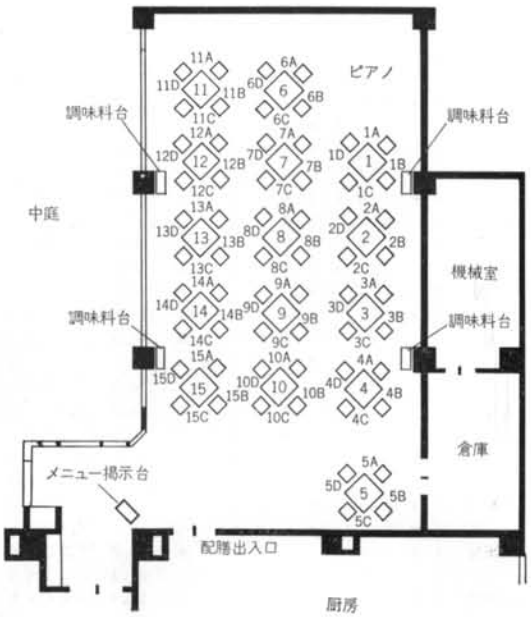
	8/12 朝	8/12 昼	22 昼	23 朝	23 昼	23 夕	24 朝	24 昼	24 夕	25 朝	26 朝	平均 朝	平均 昼	平均 夕
単身男性	6	5	6	7	5	6	6	5	5	5	6	6.0	5.3	5.5
	85.7	71.4	85.7	100.0	71.4	85.7	85.7	71.4	71.4	71.4	85.7	85.7	75.7	78.6
単身女性	13	10	9	13	5	8	9	11	13	12	11	11.6	8.8	10.5
	76.5	58.8	52.9	76.5	29.4	47.1	52.9	64.7	76.5	70.6	64.7	68.2	51.8	61.8
夫婦男性	12	8	6	9	2	9	11	6	12	9	12	10.6	5.5	10.5
	85.7	57.1	42.9	64.3	14.3	64.3	78.6	42.9	85.7	64.3	85.7	75.7	39.3	75.0
夫婦女性	9	7	5	9	3	10	9	3	12	10	11	9.6	4.5	11.0
	64.3	50.0	35.7	64.3	21.4	71.4	64.3	21.4	85.7	71.4	78.6	68.6	32.1	78.6
総計	40	30	26	38	15	33	35	25	42	36	40	37.8	24.0	37.5
	76.9	57.7	50.0	73.1	28.8	63.5	67.3	48.1	80.8	69.2	76.9	72.7	46.2	72.1

（上段；利用者数*1（人），下段；利用率*2（%））

*1：調査期間中に帰宅しなかった長期不在者（外泊，入院）を除く．したがって，在宅者数は単身男性7名，単身女性17名，夫婦男性14名，夫婦女性14名，総計52名である

*2：食事サービス利用者数の在宅者数にたいする割合（%）を示す

表—7　食事サービスの利用者数と利用率



図—1　食堂のテーブル，座席配置図

17：30〜19：30（冬期）である．食堂には，4人用テーブル15卓，計60席が設けられている（**図—1**）．配膳・片付けは，ウエイトレスによるフル・サービスである．

(1)食事サービスの利用率

表—7は，食事サービスの利用者数と利用率をまとめたものである．

全体の平均利用率は，朝食72.7%，夕食72.1%であり，昼食は46.2%注9)で，居住者の半数以上は昼食時の食事サービスを利用していない．

三食いずれも単身男性の利用率が最も高く，ついで朝食と夕食は夫婦，昼食は単身女性となっている．夫婦の昼食利用率は男性39.3%，女性32.1%で，朝食や夕食のおよそ半数しか利用していない．

(2)居住者別の食事サービス利用状況

表—8は，食事サービスの居住者別利用頻度をまとめたものである．

単身男性では，208m，211m，403mが利用頻度100%である．308mは12日，407mは24日夕食，25日，26日が欠食のほかは三食いずれも利用している．501mは昼食は利用していないが，朝食，夕食は100%利用している．

単身女性は，三食いずれも利用しているのは508fのみである．欠食1回のみが304f，309f，欠食2回のみが302f，303f，312fである．他の居住者は欠食が多い．

三食いずれも利用頻度100%という夫婦は皆無である．104は昼食はまったく利用しないが，朝食，夕食の利用頻度は100%である．105，206，301，306，406は欠食が

注9)　8月23日の昼食の利用率が28.8%と特に低いのは，ホーム主催の遠足に16名が参加したためである．しかし，8月23日を除いた昼食の平均利用率も51.9%である．

1～3回で，比較的利用頻度が高い．

(3)テーブル，座席別の利用状況

表―9は，座席別に利用人数と利用率，最も利用回数が多い居住者とその利用率をまとめたものである注10)．

テーブル№4，№5，№10，№14，№15といった食堂の入口近くに配置されたテーブルでは，すべての座席の利用率が平均より高い．一方，利用率が低いのは№1，№2といった入口から最も遠くに配置されたテーブルである．

よく利用されているテーブルのうち，№14は4席中3席が利用率100％で，最多利用者はいずれも利用率70％以上という単身男性である．№10，№15の座席の最多利用者はいずれも複数の単身女性で，各利用者の利用率は40％未満である．№4は，4A，4Bが206F，206Mに利用率63.6％で利用されている．№5は，5Aが502Fに54.5％，5Dが502Mに45.5％の利用率で利用されている．また，5B，5Cはいずれも81.8％の利用率で，105M，105Fに利用されている．

他のテーブルでは，利用率が平均より高い座席のうち3C以外は，いずれも最多利用者が夫婦である．

(4)居住者別のテーブル，座席利用状況

表―10は，居住者別の利用テーブル数と座席数，最も利用回数が多いテーブルと座席，その利用頻度をまとめたものである．

単身男性の208m，211m，308m，404M注11)は，最も利用回数が多い座席の利用頻度が80％以上である．

単身女性の場合，1Bの利用頻度が100％の313fと，食堂の利用回数が1回のみの201f，209f，410f以外は，最も利用回数が多い席の利用頻度が最高でも62.5％である．テーブルについては，利用テーブル数が少なく，最も利用回数が多いテーブルの利用頻度は40％以上である．

夫婦居住者は，平均利用テーブル数，座席数のいずれも単身居住者に比べて少ない．個人別の利用テーブルをみると，26名中15名が利用テーブル数が1である．他の居住者も，最も利用回数が多いテーブルの利用頻度は最低で42.9％（409M）である．座席をみると，5名は特定の席を利用している．利用座席数が2席の居住者（11名）は，いずれかの席の利用頻度が75％以上である．利用座席数が3席以上の居住者の場合も，10名中7名は特

注10）テーブル№および座席№は，図―1中に示したものである．

注11）404Mは，夫婦居住者であるが，調査期間中，夫人が長期不在であったため，単身男性居住者と同様の扱いとした．

	12朝	12昼	22昼	23朝	23昼	23夕	24朝	24昼	24夕	25朝	26朝	利用頻度*1 朝	昼	夕
単身男性居住者														
208m	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	100.0	100.0	100.0
211m	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	100.0	100.0	100.0
403m	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	100.0	100.0	100.0
308m			*	*	*	*	*	*	*	*	*	80.0	75.0	100.0
407m	*	*	*	*	*	*	*	*				60.0	100.0	50.0
510m	*			*		*	*		*	*	*	100.0	0	100.0
404M	*	*	*	*							*	60.0	50.0	0
単身女性居住者														
508f	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	100.0	100.0	100.0
309f	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	100.0	100.0	50.0
304f	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	100.0	75.0	100.0
302f	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	100.0	75.0	100.0
303f	*	*	*			*	*	*	*	*	*	80.0	75.0	100.0
312f	*	*		*	*	*		*	*	*	*	80.0	75.0	100.0
212f	*	*		*			*	*	*	*	*	100.0	50.0	50.0
213f	*		*	*		*		*	*	*	*	80.0	50.0	100.0
101f	*			*		*	*		*	*	*	100.0	0	100.0
402f	*	*		*		*	*		*	*		80.0	25.0	100.0
504f	*		*	*	*				*	*	*	80.0	50.0	50.0
202f	*			*			*	*	*		*	80.0	25.0	50.0
507f		*	*	*				*		*		40.0	75.0	0
313f		*	*					*	*			0	75.0	50.0
410f	*											20.0	0	0
209f				*								25.0	0	0
201f		*										0	25.0	0
夫婦居住者														
105M	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	100.0	75.0	100.0
F	*	*	*	*		*	*		*	*	*	100.0	50.0	100.0
206M	*		*		*	*	*	*	*	*	*	80.0	75.0	100.0
F	*		*		*	*	*	*	*	*	*	80.0	75.0	100.0
306M	*	*		*		*	*		*	*	*	100.0	25.0	100.0
F	*	*		*	*	*	*		*	*	*	100.0	50.0	100.0
301M	*		*	*		*	*		*	*	*	100.0	25.0	100.0
F	*		*	*		*	*		*	*	*	100.0	25.0	100.0
406M	*		*	*	*	*	*		*		*	80.0	50.0	100.0
F	*		*	*	*	*	*		*		*	80.0	50.0	100.0
205M	*	*		*		*	*	*		*	*	100.0	50.0	50.0
F		*		*		*	*			*	*	80.0	25.0	50.0
104M	*			*		*	*		*	*	*	100.0	0	100.0
F	*			*		*	*		*	*	*	100.0	0	100.0
203M	*	*					*		*	*	*	80.0	25.0	50.0
F	*	*					*		*	*	*	80.0	25.0	50.0
502M	*	*		*			*		*		*	80.0	25.0	50.0
F	*	*		*			*		*	*	*	100.0	25.0	50.0
102M		*	*			*		*	*			0	75.0	100.0
F		*	*			*		*	*			0	75.0	100.0
506M	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	100.0	75.0	100.0
F				*		*			*	*		40.0	0	100.0
409M	*	*		*			*	*	*		*	80.0	50.0	50.0
F		*						*	*		*	20.0	50.0	50.0
509M	*								*	*	*	60.0	0	50.0
F	*			*		*			*	*	*	80.0	0	100.0

（*は食事サービスを利用したことを示す）

*1：食事サービス提供回数に対する各居住者の利用回数の割合（％）を示す（食事サービス提供回数は朝食5回，昼食4回，夕食2回）

表―8 居住者別の食事サービス利用状況

	利用率*1	利用人数（内訳*2）	最多利用者*3（利用率）
1 A	0	0	—
B	36.4	1（0／0／0／1）	313 f (36.4)
C	0	0	—
D	18.2	1（0／0／1／0）	403m (18.2)
2 A	27.3	2（1／1／0／0）	509F (18.2)
B	36.4	2（1／1／0／0）	509M (27.3)
C	9.1	1（1／0／0／0）	203M (9.1)
D	27.3	3（0／2／0／1）	304 f , 204F , 509F (9.1)
3 A	63.6	1（1／0／0／0）	104M (63.6)
B	63.6	1（0／1／0／0）	104F (63.6)
C	63.6	2（0／0／1／1）	213 f (54.5)
D	18.2	2（0／1／0／1）	509F , 309 f (9.1)
4 A	72.7	1（0／1／0／0）	206F (72.7)
B	81.8	2（1／0／1／0）	206M (72.7)
C	54.5	6（1／0／0／5）	312f , 201f , 304f , 206M , 212f , 508f (9.1)
D	63.6	4（0／0／1／3）	212 f (36.4)
5 A	63.6	2（1／1／0／0）	502F (54.5)
B	90.9	2（1／0／1／0）	105M (81.8)
C	90.9	2（1／1／0／0）	105F (81.8)
D	54.5	2（1／1／0／0）	502M (45.5)
6 A	63.6	1（0／1／0／0）	301F (63.6)
B	9.1	1（1／0／0／0）	203M (9.1)
C	9.1	1（0／1／0／0）	203F (9.1)
D	63.6	1（1／0／0／0）	301M (63.6)
7 A	27.3	3（1／1／1／0）	306M , 407m , 406F (9.1)
B	100.0	4（1／3／0／0）	406M (72.7)
C	54.5	2（1／1／0／0）	406F (45.5)
D	36.4	3（1／0／1／1）	406F (18.2)
8 A	0	0	—
B	54.5	2（1／1／0／0）	205F , 409M (27.3)
C	72.7	2（1／1／0／0）	205M (45.6)
D	9.1	1（0／0／1／0）	510m (9.1)
9 A	18.2	2（0／0／1／1）	407m , 304 f (9.1)
B	54.5	2（1／0／0／1）	102M (45.5)
C	54.5	3（0／2／0／1）	102F (36.4)
D	36.4	3（1／2／0／1）	205M (18.2)
10 A	63.6	5（0／0／0／5）	312 f , 303 f (18.2)
B	81.8	4（0／0／0／4）	508 f , 304 f (27.3)
C	90.9	6（0／0／0／6）	508 f (27.3)
D	72.7	7（0／0／1／6）	202 f (18.2)
11 A	63.6	2（1／1／0／0）	306M (36.4)
B	72.7	4（1／1／1／1）	306F (36.4)
C	0	0	—
D	9.1	1（1／0／0／0）	306M (9.1)
12 A	81.8	4（1／0／0／3）	101 f (36.4)
B	81.8	4（0／1／0／3）	504 f (27.3)
C	0	0	—
D	27.3	1（0／0／0／1）	309 f (27.3)
13 A	90.9	4（3／1／0／0）	506M , 506F (36.4)
B	36.4	3（1／2／0／0）	409M (18.2)
C	54.5	3（2／0／1／0）	403m (36.4)
D	100.0	4（1／0／3／0）	506M (45.5)
14 A	100.0	4（0／0／2／2）	308m (72.7)
B	100.0	3（1／0／2／0）	211m (81.8)
C	100.0	2（0／0／2／0）	208m (90.9)
D	72.7	4（1／0／3／0）	404M (36.4)
15 A	90.9	6（0／0／1／5）	303 f (36.4)
B	90.9	7（0／1／0／6）	504 f , 309 f , 508 f (18.2)
C	81.8	8（0／0／0／8）	302 f , 508 f (18.2)
D	81.8	5（0／0／0／5）	304 f , 402 f (27.3)
平均	53.8	2.7	—

＊1：食事サービス提供回数（11回）に対して各座席が利用された割合（%）を示す
＊2：利用人数の内訳は（夫婦男性／夫婦女性／単身男性／単身女性）を示す
＊3：最多利用者とは該当する座席を最も多く利用した居住者をさす

表—9 テーブル・座席別の利用状況

	食堂利用回数	利用テーブル数*1	最多利用テーブル*2	(利用頻度*3)	利用座席数*1	最多利用座席*2	(利用頻度*3)
単身男性居住者							
208m	11	1	No.14	(100.0)	2	14C	(90.9)
404M	5	1	14	(100.0)	2	14D	(80.0)
308m	9	2	14	(88.9)	2	14A	(88.9)
211m	11	2	14	(81.8)	2	14B	(81.8)
510m	7	2	14	(57.1)	4	14D	(42.9)
403m	11	5	13	(54.5)	6	13C	(45.5)
407m	8	6	13	(37.5)	6	13D	(37.5)
平均	8.9	2.7			3.4		
単身女性居住者							
313f	4	1	No. 1	(100.0)	1	1B	(100.0)
410f	1	1	15	(100.0)	1	15C	(100.0)
209f	1	1	10	(100.0)	1	10C	(100.0)
201f	1	1	4	(100.0)	1	4C	(100.0)
202f	6	2	10	(83.3)	4	10CD	(33.3)
101f	7	3	12	(71.4)	4	12A	(57.1)
212f	7	2	4	(71.4)	4	4D	(57.1)
312f	9	3	10	(66.7)	7	10AD	(22.2)
213f	8	3	3	(62.5)	4	3C	(62.5)
309f	10	3	12	(60.0)	6	12D	(30.0)
302f	10	3	15	(60.0)	7	15BC,10C	(20.0)
507f	5	2	15	(60.0)	5	15ABC,10CD	(20.0)
402f	7	4	15	(57.1)	5	15D	(42.9)
504f	7	3	12	(57.1)	4	12B	(42.9)
303f	9	3	15	(55.6)	5	15A	(44.4)
508f	11	3	10	(54.5)	5	10BC	(27.3)
304f	10	5	10	(40.0)	6	10B,15D	(30.0)
平均	6.6	2.5			4.1		
夫婦居住者							
105F	9	1	No. 5	(100.0)	1	5C	(100.0)
406M	8	1	7	(100.0)	1	7B	(100.0)
104M	7	1	3	(100.0)	1	3A	(100.0)
104F	7	1	3	(100.0)	1	3B	(100.0)
102M	5	1	9	(100.0)	1	9B	(100.0)
105M	10	1	5	(100.0)	2	5B	(90.0)
206M	9	1	4	(100.0)	2	4B	(88.9)
206F	9	1	4	(100.0)	2	4A	(88.9)
502F	7	1	5	(100.0)	2	5A	(85.7)
502M	6	1	5	(100.0)	2	5D	(83.3)
102F	5	1	9	(100.0)	2	9C	(80.0)
509M	4	1	2	(100.0)	2	2B	(75.0)
506F	4	1	13	(100.0)	2	13A	(75.0)
506M	10	1	13	(100.0)	3	13D	(50.0)
406F	8	1	7	(100.0)	3	7C	(50.0)
301M	8	2	6	(87.5)	2	6D	(87.5)
301F	8	2	6	(87.5)	2	6A	(87.5)
306M	8	2	11	(87.5)	4	11A	(50.0)
306F	9	3	11	(77.8)	4	11B	(44.4)
409F	4	2	8	(75.0)	2	8C	(75.0)
509F	6	3	2	(66.7)	5	2A	(33.3)
205M	8	3	8	(62.5)	4	8C	(62.5)
203M	6	4	12	(50.0)	4	12A	(50.0)
203F	6	4	12	(50.0)	4	12B	(50.0)
205F	6	3	8	(50.0)	4	8B	(50.0)
409M	7	3	8,13	(42.9)	4	8B	(42.9)
平均	7.1	1.8			2.5		
男性	7.4	1.7			2.5		
女性	6.8	1.8			2.5		
全体平均	7.2	2.2			3.2		

＊1：居住者が調査期間中に利用したテーブル，座席の数をいう
＊2：居住者別にみた場合に利用回数が最も多いテーブル，座席をいう
＊3：各居住者の食堂利用回数に対する特定のテーブル，座席の利用回数の割合を示す（%）

表—10 居住者別のテーブル・座席利用状況

定の席の利用頻度が50%以上である．

3.3 考察

3.3.1 居住者の余暇活動と余暇施設の使われ方

ラウンジが居住者同士のコミュニケーションの場として利用されたのは2回のみで活用されているとはいえない．むしろ，ロビーやエレベータ・ホールでのコミュニケーションが頻繁に行なわれており，日常的なコミュニケーションの場の在り方が検討課題になり得る．

ラウンジが居住者に最もよく利用されるのは，銀行の出張サービス時である．しかし，ラウンジは間仕切りがないオープンなスペースであり，居住者のプライバシー確保という側面では銀行サービスの場に適しているとはいえない．応接室など，個室利用の検討が必要である．

多目的ルームの使われ方について，ホームが主催する健康維持・向上の運動の参加者数や平均参加日数をみると，居住者の2～3人に1人は健康維持・増進の活動に関心を持ち，2日に1回の割合で参加していることになる．また，夫婦女性，単身女性の順に参加者が多く，しかも毎日参加している2名は女性である．このように，男性が健康の維持・向上を重視しているという既存データの分析結果とは逆の傾向がみられ，組織活動が入居後の女性の参加意識を変化させたことも考えられる．

しかし，最も参加日数が多いのは単身男性で，ついで夫婦男性である．日常的に継続して参加する可能性が大きいのは男性であると考えられる．

一方，居住者の自主的，あるいは個人的な余暇活動での利用は，最近始められたダンスの練習や104Mの毎朝の体操のように限られたものであり，十分活用されているわけではない．

プレー・ルームでは，ビリヤードのコーナーが最もよく使われている．その一方では，麻雀，併設の和室などはほとんど使われていないというのが実情である．

ビリヤード・コーナーは，最も利用され

ている余暇施設であるにもかかわらず，必ずしも多くの居住者に積極的に活用されているわけではなく，利用者は特定の居住者に限られている．個人的には，平均利用回数だけからみるとほぼ1日に1回利用していることになり，日常的に利用しているとみられる．

以上のように，余暇施設では多目的ルームが，主としてホームの主催する活動に利用されている．なかでも，健康維持・向上のための活動への関心が比較的高い．

しかし，多目的ルームでの居住者の自主的な活動としては，ダンスの練習が始められたばかりである．プレー・ルームでは自主的な活動としてビリヤードがよく利用されているが，利用者は少数の居住者に限られている．また，ラウンジもよく利用されるのはホームが提供する銀行の出張サービスであり，居住者同士のコミュニケーションの場としては活用されていない．

このように，余暇施設は居住者の自主的な余暇活動に積極的に用いられてはいない．このような問題は，計画時に居住者の欲求や生活行為が十分配慮されていないことによって生じた可能性が考えられる．しかし，実際には高齢者の余暇活動の実態は，計画に反映できるほど明確になっているわけではない．居住者の余暇の過ごし方をさらに的確に把握したうえで，適切な余暇施設の在り方を検討することが必要である．

3.3.2 居住者の食事行為と食堂の使われ方

食事サービスについては，朝食，夕食は利用者が多いのに対して，昼食の利用者は約半数であり，昼食時を含む日中の外出者が多いことが推測される．

単身男性が，三食ともに食事サービスに依存しているとみられるのに対して，自炊や外食というように，単身女性や夫婦居住者の食事の選択範囲が単身男性よりも広いと考えられる．特に，夫婦居住者の昼食はその傾向が強い．

テーブルの使われ方をみると，入口に近いテーブルが利用されやすく，遠いテーブルは利用されにくいという傾向がある．入口に近い№14のテーブルは単身男性専用で，しかも個人の固定席として使われている．また，№10，№15は特定の個人の固定席としては使われていないが，単身女性専用に近い使われ方がなされている．

利用率が特に低い№1，№2以外のテーブルでは，利用率が平均より高い座席のうち，3C以外はいずれも夫婦居住者が最多利用者であり，それぞれのテーブル，座席が夫婦居住者の専用になっているとみられる．

居住者別には，単身男性のうち208m，211m，308m，404Mの座席がほぼ固定している．また，403m，407m，510mは，テーブル，座席のいずれも2回に1回は同じ場所を利用するというように，特定のテーブル，座席を利用する傾向がある．

単身女性の場合，最も利用回数が多い座席の利用頻度は低く，座席の固定化傾向はみられない．しかし，最も利用回数が多いテーブルの利用頻度は40%以上で，ほぼ2回に1回は同じテーブルを利用するという傾向がある．

夫婦居住者は，26名中15名が特定のテーブルを利用しており，最多利用テーブルの利用頻度は最低でも42.9%であることから，利用するテーブルの固定化傾向が強いといえる．座席についても，5名は利用座席数が1であり，最多利用座席の利用頻度が最低で42.9%であることから，2回に1回は同じ座席を利用するといえる．

以上のように，食事サービスへの依存の仕方が男女別単身居住者，夫婦居住者で異なる．また，単身男性と夫婦は座席の固定化，単身女性はテーブルの固定化というように，テーブル・座席の利用の仕方が異なる．これらは，家族や友人関係，男女間の炊事に対する意識の差，あるいは炊事の得手・不得手といったことなどを考慮すると，当然起こり得る現象であるかもしれない．また，食堂の規模計画といった側面では，余裕をもった計画がなされる場合や，十分な食事時間が設定されている場合には問題にはならないかもしれない．しかし，より厳密に計画を行なわなければならない場合には，一般的な規模算定の根拠となる全居住者数（あるいは全居室数）や回転数だけでは，的確な計画が行なえるとは限らない．すなわち，食堂の利用率（利用者数）やテーブル，座席数は男女別単身居住者と夫婦居住者の構成比によって異なることとなり，その結果混雑や調理能力の不足などの問題が生じる可能性がある．ホームの運営方針にも関連することであるが，食堂の規模計画ではテーブル・座席数を全居住者数や回転数のみから算定するのではなく，そのような構成比を考慮して算定する必要がある．

テーブル，座席の配置についても，入口付近が単身居住者，入口から遠くが夫婦居住者というようなゾーンの形成を考慮すると，居住者の構成によって，入口や配膳窓口からの動線が短い位置に配置すべきテーブルや座席数，平面型が異なることになる．しかし，配置や平面型の問題については，ゾーンの形成が現状の平面型やテーブル，座席の配置に起因している可能性もある．したがって，食堂の平面型やテーブル，座席の配置との関連でゾーンの形成要因を明らかにすることも必要である．

さらに，このようなゾーンが形成されるということから，食堂は食事だけでなく居住者のコミュニケーションの場として使われているとみられる．すなわち，食事行為には余暇活動が含まれていることが考えられるため，

余暇活動の観点からも居住者の食事行為をより詳細に把握する必要がある.

§4. おわりに

余暇活動については既存データ分析の結果，余暇施設の必要性がほとんど意識されていないことが分かった．また，余暇施設そのものでは，スポーツよりも趣味創作のための施設が求められていることが分かった．しかし，一方では有料老人ホームの組織的活動や施設に対する期待がみられる.

実態調査の結果をみると，余暇施設は主としてホーム主催の活動で利用されていることが分かった．なかでも健康維持・向上のための活動に対する関心が高く，特に女性の参加者が多い．これは，既存データ分析にみられる組織的な活動への期待が実現された結果や，参加機会の増大の結果であることが考えられる.

自主的な余暇活動では，施設やその利用機会が与えられているにもかかわらず利用者は限られており，積極的には活用されていない．自主的な余暇活動時間は，一日の生活の大半を占めるものであり，また余暇施設そのものは面積的に大きな割合を占めている．しかも，既存データの分析結果にみられる余暇施設への期待を考慮すると，より活用される施設の提供が必要である．そのためには，居住者の余暇の過ごし方をさらに的確に把握することが課題となる.

食事行為に関する実態調査の結果から，単身居住者，夫婦居住者の構成比によって食事サービスの利用や食堂のテーブル・座席の使われ方が異なるとみられる．食堂の計画では，このような構成比を考慮した規模（面積，テーブル・座席数など）の検討，テーブル・座席の配置を含む平面型の検討が必要である．さらに，食事時間中の行為には，居住者同士のコミュニケーションのような一種の余暇活動が含まれており，余暇活動の観点からも食事行為をより詳細に把握することが必要である.

また，調査方法について，以下のような制約によって居住者の余暇活動全般にわたって満足できる十分なデータ収集，分析を行なえなかったという問題が生じた.

まず，居住者の身体的，精神的負担や運営管理者に対する不信感が生じることを懸念して，当初予定していたヒアリング調査を中止した．その結果，居住者の意識については十分把握することができなかった.

観察調査についても，居住者のプライバシー確保のため居室部分への出入りがむずかしく，居住者個々の生活行為や活動の時間経過を把握することができなかった.

実態調査が研究の成否を左右する本研究においては，上記のような制約を克服する調査方法の確立もまた重要な課題である.

＜参考文献＞

1) 経済企画庁総合計画局編："活力ある高齢社会を目指して—高齢社会への課題と対応—"（1984年11月）p.52
2) ㈳全国有料老人ホーム協会："有料老人ホームの計画—設置・運営のガイドライン"（1987年）p.21
3) 総務庁長官官房老人対策室："長寿社会対策の動向と展望—長寿社会対策のフォローアップ—"（1988年）p.23
4) 井上誠："有料老人ホームにおける共用施設の計画に関する研究—高齢者の余暇活動と余暇施設の計画上の検討課題について"日本建築学会大会学術講演梗概集（1989年10月）
5) 井上誠："有料老人ホームの建築計画に関する今後の研究課題"同上（1986年8月）
6) ㈱余暇開発センター："レジャー白書'89—完全週休2日時代のレジャー—"（1989年4月）
7) ㈳全国有料老人ホーム協会："有料老人ホームに関する基礎調査"（1987年7月）
8) "全国有料老人ホームガイド'89"双葉社（1989年5月）
9) 前出5)